

ボーリング試料



ボーリング試料の分析

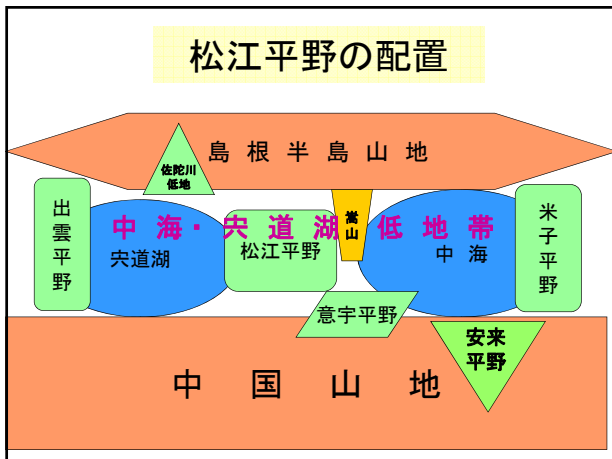


現地を観る(合銀ビルより)

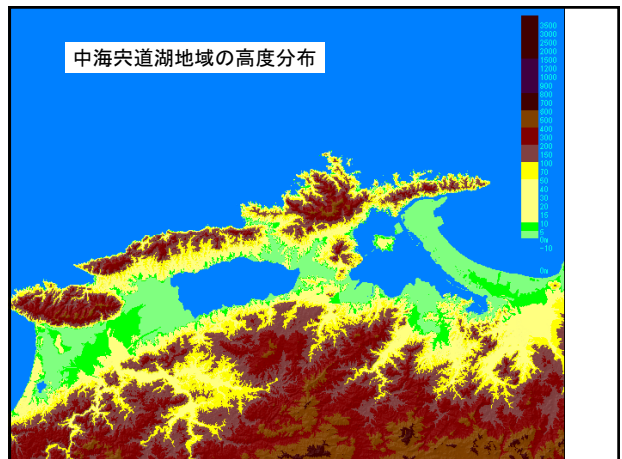
松江平野の位置

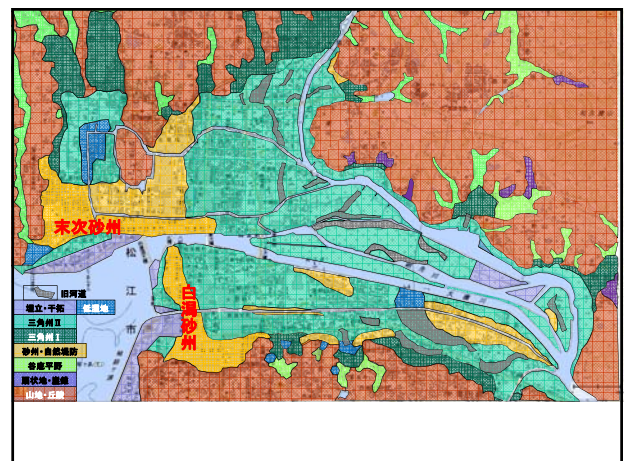
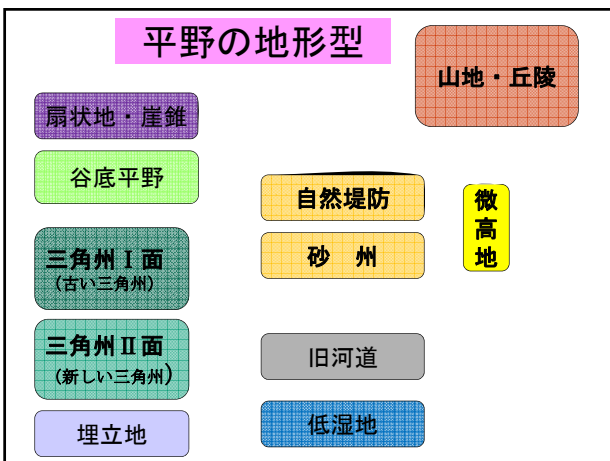
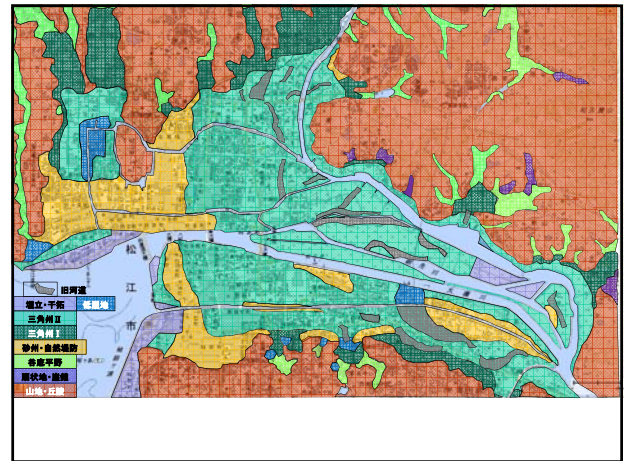
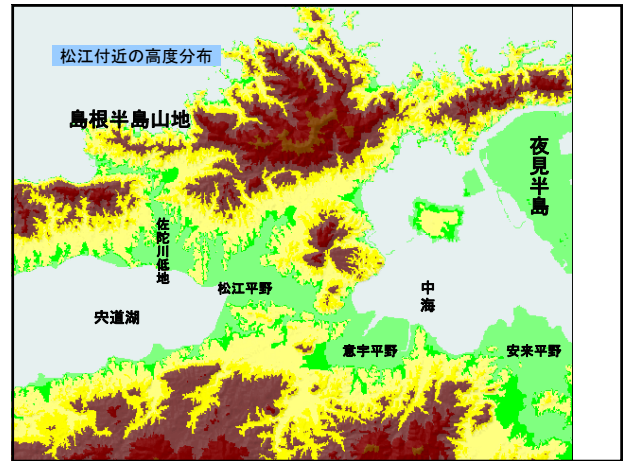
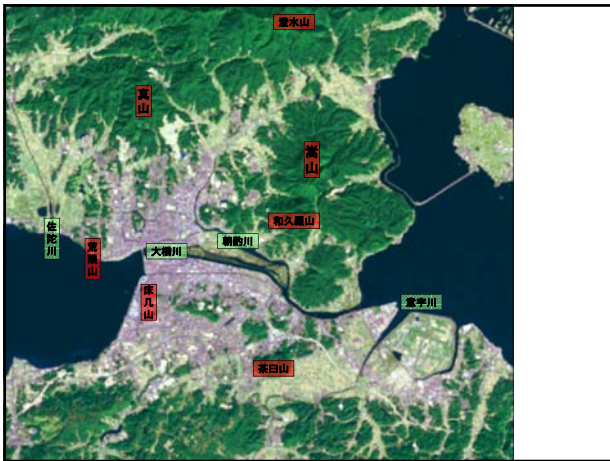


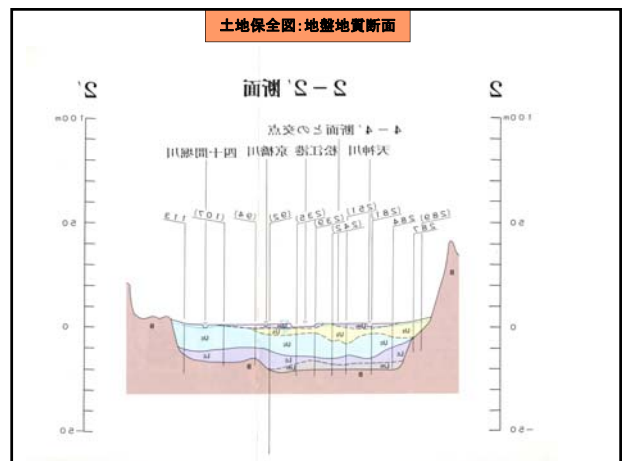
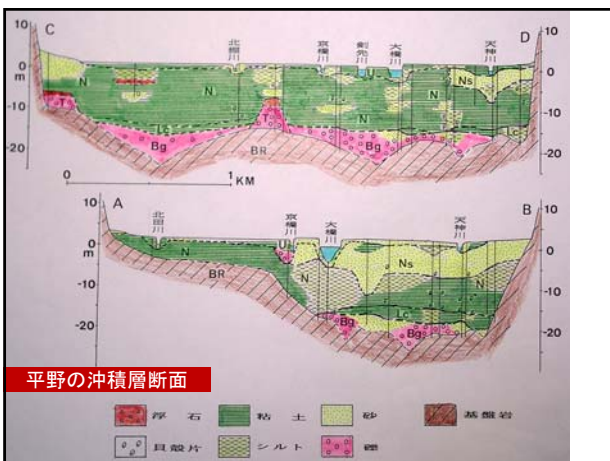
松江平野の配置

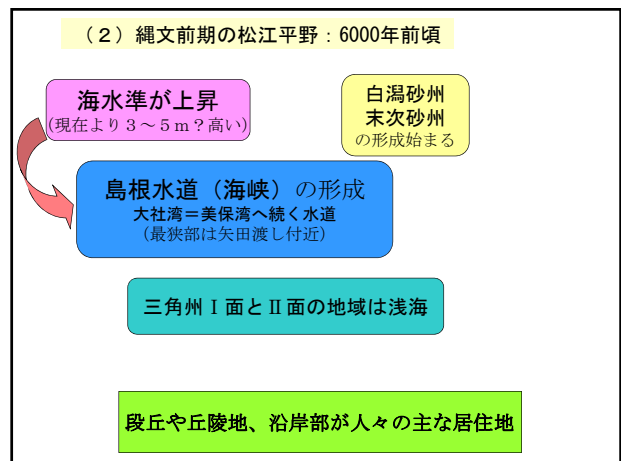
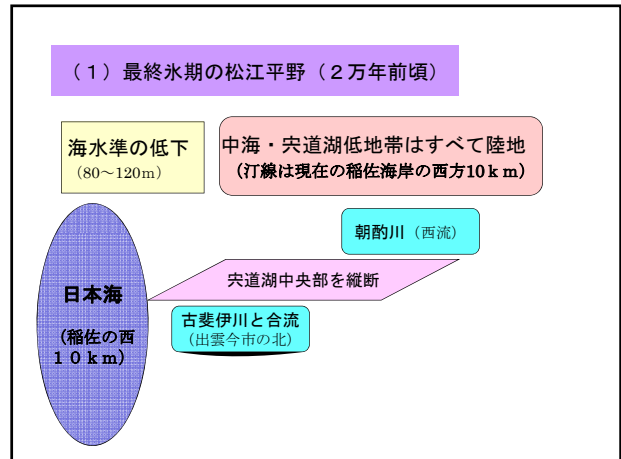
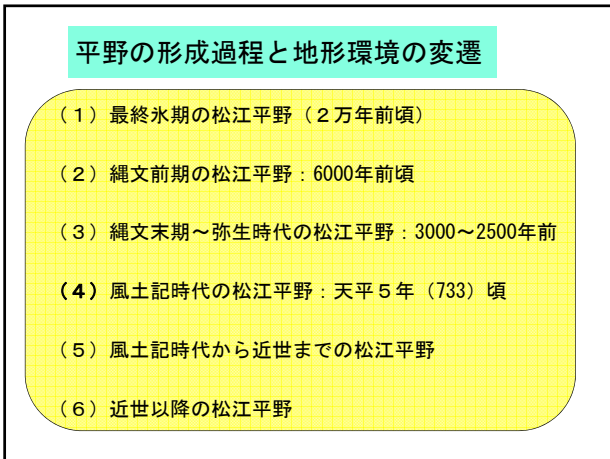
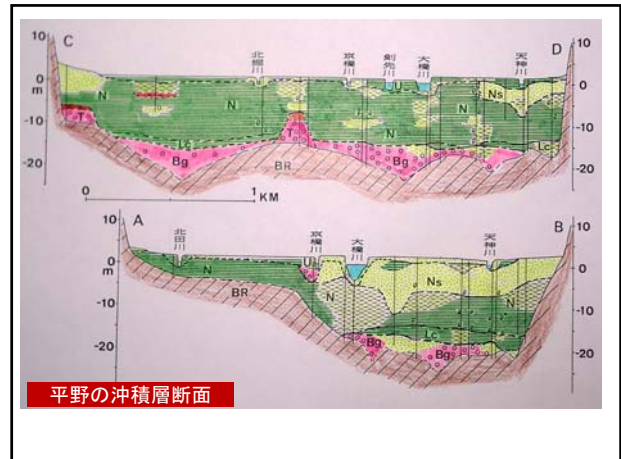
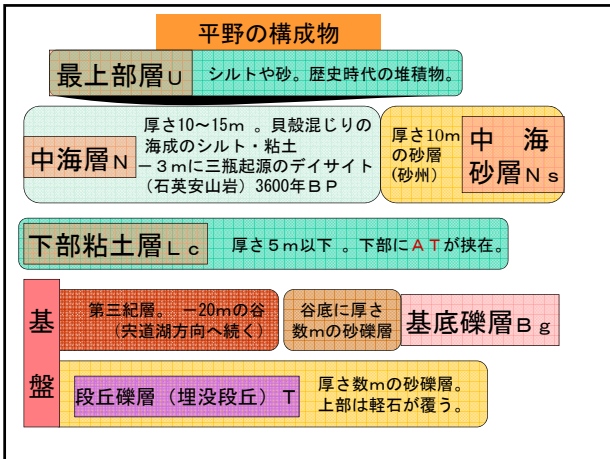


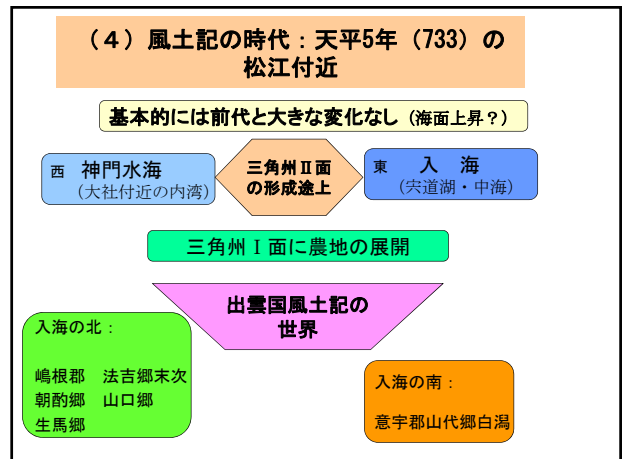
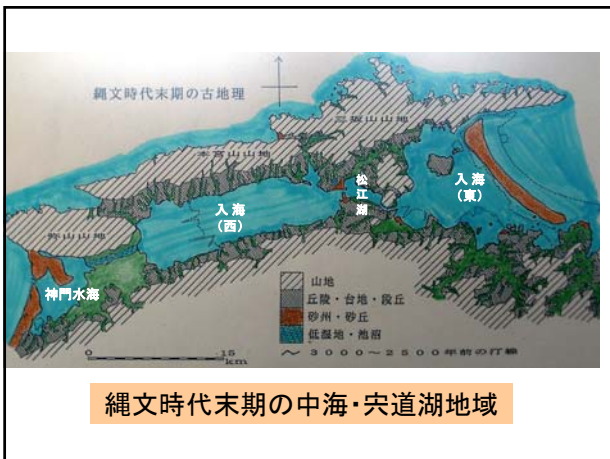
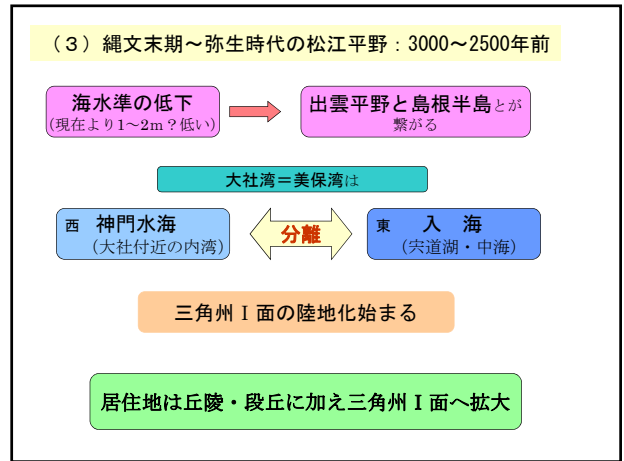
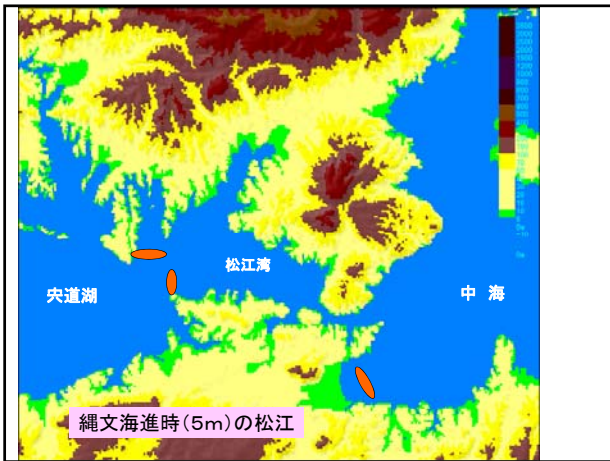
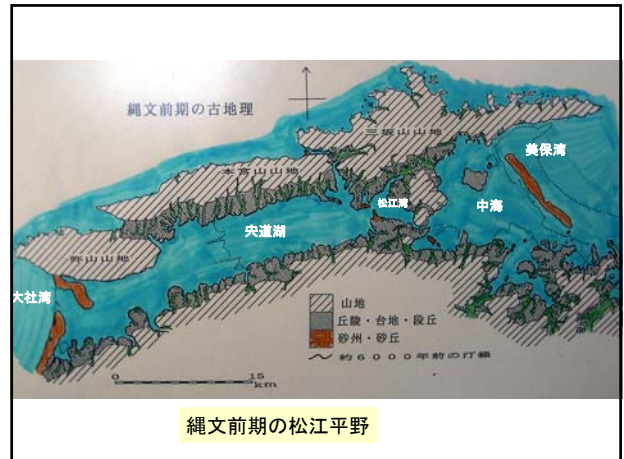
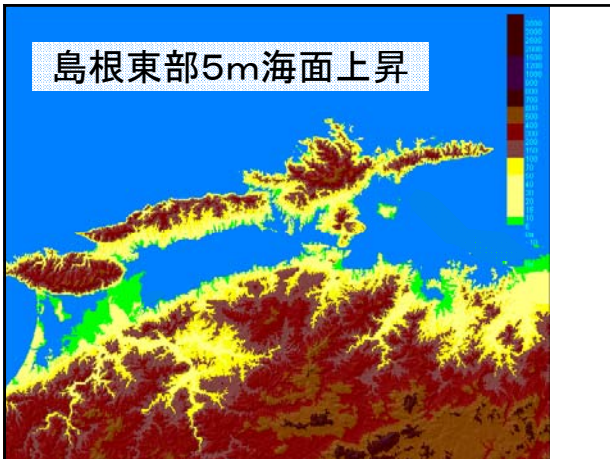
中海宍道湖地域の高度分布











意宇郡の様子

郷：
山代郷
大草郷

山：
神名樋野
(茶臼山171m)

島：
塩楯嶋
蚊嶋＝周囲60歩(107m)
ミル(海松)生息

河川：
野代川
(忌部川)

朝酌渡

嶋根郡の様子

郷：
法吉郷
朝酌郷
山口郷
生馬郷

山：
布自積美高山(嵩山298m)
女岳山(和久羅山262m)
毛志山(澄水山513m)
大倉山(枕木山456m)

池沼：
法吉坡
周囲2.7*
深さ2m

河川：
水草川
(朝酌川)
多久川
(講武川)

朝酌促戸渡
朝酌渡：
幅80歩
(143m)
現在120m

佐太水海
周囲約7*
宋道湖から
270m内陸



(5) 風土記時代から近世までの松江平野

中世の松江平野：データ乏しい

三角州Ⅱ面：着実に拡大

三角州Ⅰ面：農地や集落の発展

荘園：
楯屋荘 佐陀荘
末次荘 持田荘
(12世紀頃)

条里制地割り：
意宇川下流
朝酌川中・上流部(持田・川津)
西生馬 下佐陀 古曾志
西浜佐陀 本庄 長海

6 近世以降の松江平野

①城下町建設当時の松江

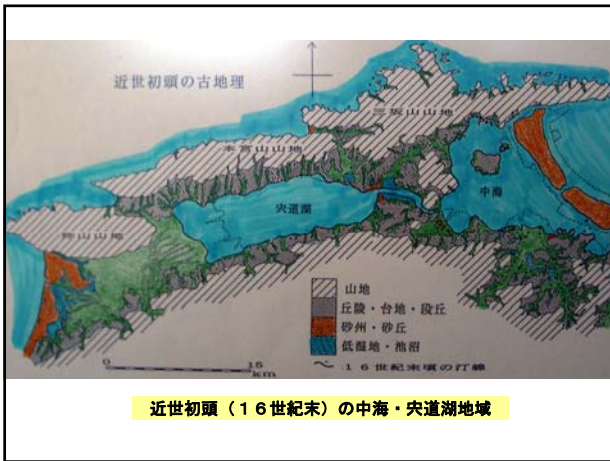
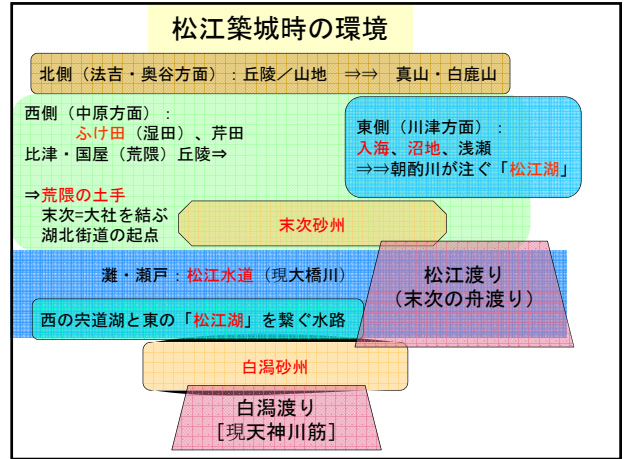
松江築城：慶長12～16年(1607～1611)

風水思想による城郭の位置

高山 (北)
城
流水(川) (東)
沢畔(湖沼) (南)
大道(街道) (西)



堀尾時代の松江城下



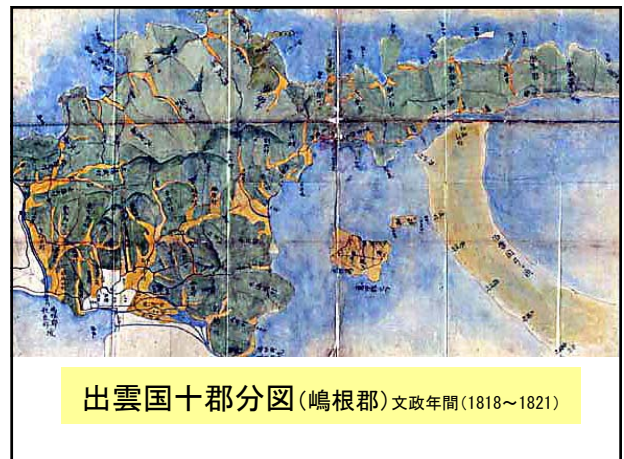
近世初頭（16世紀末）の中海・宍道湖地域



出雲十二郡図寛永13年(1636)



延享時代(1744~1748)
の松江城下
右図は大橋の下流部



出雲国十郡分図(嶋根郡)文政年間(1818~1821)



雲州全図文政10年(1827)



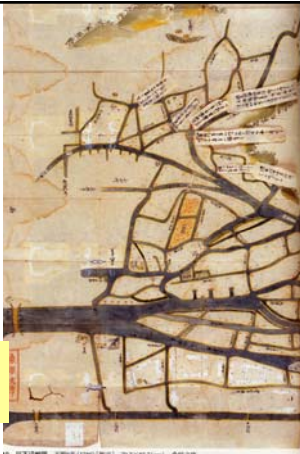
松江城下図
江戸後期



天保年間(1830~1844)の松江



天保年間(1830~1844)の松江



川下辺絵図
天明6年(1786)?



江戸期の主な堀跡

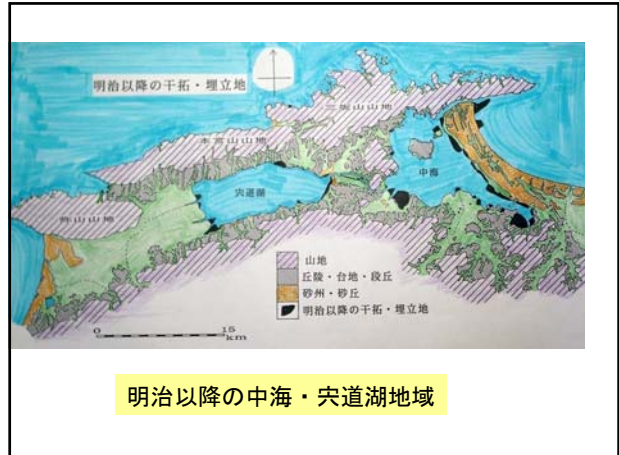
近世城下町時代の平野の変遷

市街地(城下)の拡大

旧松江湖(川津地区)の新田開発
入り組んだクレーク(小支流・細流)の存在

天神川の改修・開削

堀の開削:
和多見川、式番堀川など



明治以降の中海・宍道湖地域

明治22年(1889) 4月1日 松江市制施行時の町

橋北地区: 22町

石橋町, 内中原町, 奥谷町, **幸町**, 片原町, 北田町, 北堀町,
末次町, 殿町, 外中原町, 中原町, **西茶町**, **東茶町**, 母衣町,
南田町, **米子町**, 本町, **紙屋町**, **元材木町**, **魚町**, **鍛冶町**, **新材木町**

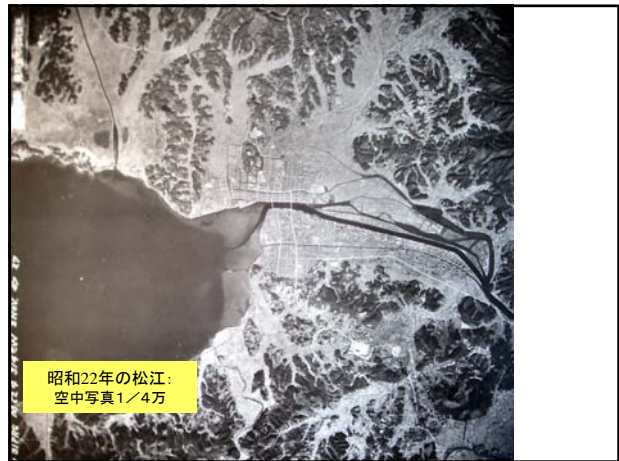
* 本町は現在の末次本町
** 紙屋町, 元材木町, 魚町, 鍛冶町, 新材木町は現在の東本町1~4丁目。

橋南地区: 11町

本町, 魚町, 雑賀町, 新町, **堅町**, **寺町**, **天神町**, **灘町**,
八軒屋町, **横浜町**, **和多見町**

* 本町は現在の白潟本町に該当

赤字は城下町に存在した町名



昭和22年の松江:
空中写真1/4万



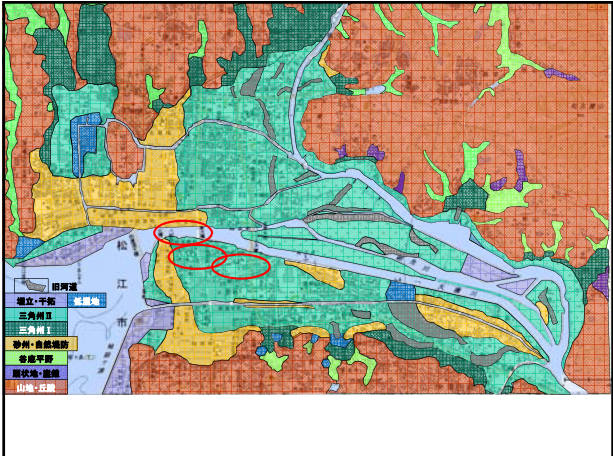
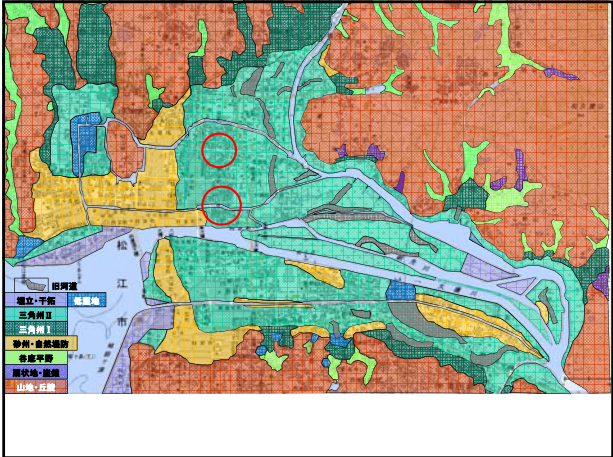
昭和31年の松江



現代の松江
(平成13年)



平成18年 (2006)
7月19日の
水害





大橋川



大橋川-東本町



大橋川:八軒屋-和多見町

大橋川-和多見町



大橋川-和多見町

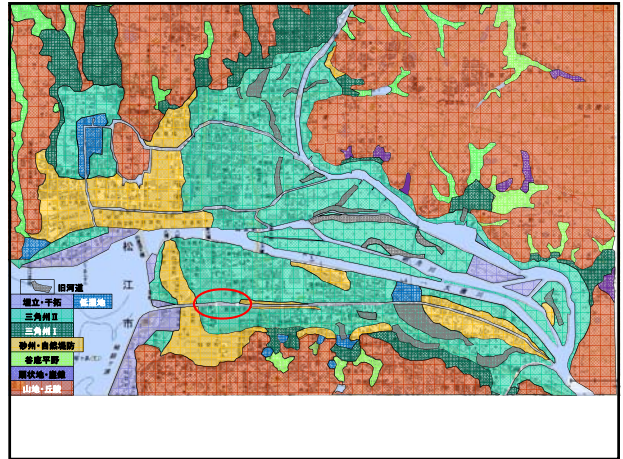


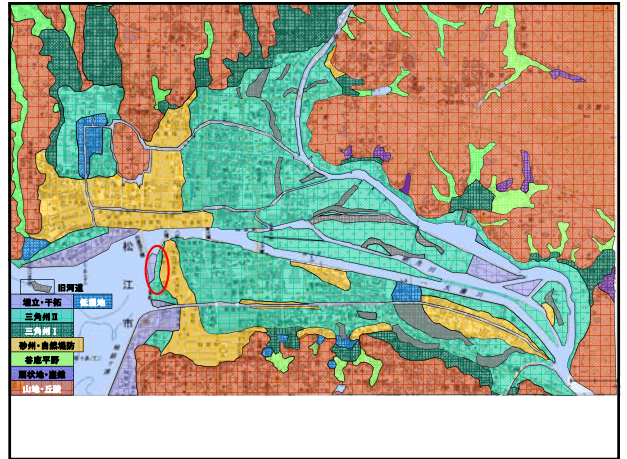
大橋川-伊勢宮町
新大橋通り東

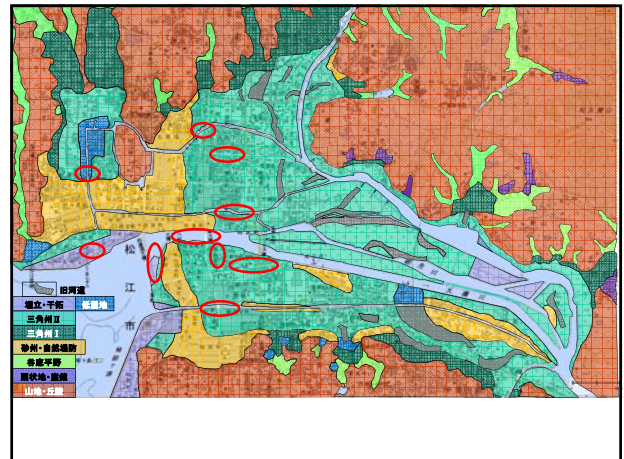


大橋川-伊勢宮町
新大橋通り東









水害と防災

費用対効果: 築堤・ダム・護岸
30年に一度の水害対策
10年に一度の水害対策

100年に一度の大洪水
想定が困難

防災⇒ 免災 避災

連続堤⇒
・内水氾濫の危険性
・他地域への影響

命あってのものだね

遊水地の見直し
市街化調整区域の線引き

防災から免災・避災へ:
ソフト面での対応(危機管理)、的確な情報網

免災・避災

君子危うきに
近寄らず

危険な場所に住まない
(立地条件の把握)←ハザードマップ

警報が出ていたら指示に従う
(的確な情報・情報網)

禍福はあざなう
縄のごとし

財産は後に補填可能
(再出発への支援)←積立基金

設備更新と考えよ
(火事と喧嘩は江戸の華)

人命第一
命あってのものだね

